

『協働』によるまちづくり

あおきかつのり
葛飾区長(東京都) **青木克徳**
Katsunori Aoki



下町人情あふれるまち「葛飾区」

葛飾区は、東京23特別区の東に位置する人口46万人のまちです。

ここは映画「男はつらいよ」の舞台の地であり、さながら映画に登場するキャラクターのような人情味豊かな区民が、地域を愛し、地域を盛り上げ、地域づくりを進めています。平成30年2月、「葛飾・柴又」が東京で初めて国の重要な文化的景観に選定されました。本区は、これまでも「葛飾・柴又」で、納涼花火大会、寅さんサミット、柴又100キロマラソン、柴又への相撲(東関)



東京で初めて重要な文化的景観に指定された「葛飾・柴又」

部屋誘致など、地域の方々と『協働』して、ソフト・ハード両面からさまざまな取り組みを行ってきました。そして今年の4月には、松竹株式会社と『協働』して「寅さん記念館」山田洋次ミュージアムを過去最大規模でリニューアルさせ、人情味あふれる柴又づくりを加速させています。私はこれからも多くの方と一緒に、柴又帝釈天と門前町、矢切の渡し、江戸川など、下町情緒豊かな景観の保存を進めながら、たくさんの人々が集まり、楽しみ、下町人情を味わえるまちをつくっていきます。これからは「葛飾・柴又」を、地域と区民が誇るブランドとして、本区全体を盛り上げるようにしていきます。

また、本区は、日本有数の理系総合大学「東京理科大学」の最大キャンパスである「葛飾キャンパス」が所在する文教都市でもあります。東京理科大学では、葛飾キャンパスを工学の拠点、新技術・新産業創造の拠点と位置付けており、本区は東京理科大学と『協働』して、産学公連携や葛飾の子どものための教育連携を深めています。

本誌をご覧になっている各自自治体の皆さま、機会があれば、ぜひ「葛飾区」へ足を運んでいただきたいと思います。

各市町村と『協働』して

互いに発展するまちづくり

今年3月、「駅がまるごとキャブテン翼

に！」といった見出しがテレビ・新聞に掲載されました。これは、人気サッカー漫画「キャブテン翼」原作者の高橋陽一さん(葛飾区名誉区民 葛飾区四つ木出身)の縁で、今回、京成電鉄四ツ木駅の構内すべてが「キャブテン翼」でラッピングされたという報道でした。これまでの本区と地域の方々によるキャブテン翼を活用したまちづくりに応え、京成電鉄も『協働』の輪の中に参画し、ラッピングを京成電鉄が自ら企画して行ったものです。事業者(京成電鉄)も魅力ある地域づくりを地元の人々と一緒に進めてくれているのです。

本区は今、さまざまな地域資源を掘り起こし、それらを活かしたまちづくりを区民・商店街・事業者の方々と『協働』して進めています。葛飾区亀有では、地元出身の漫画家秋本治さんの作品「こちら葛飾区亀有公園前派出所(集英社)」を活かし、キャラクター像の設置、地域限定こち亀グッズ、両さんベーゴマ大会などを展開しています。葛飾区新小岩では、地元で生産されてきた「モンチッチ(セキグチ)」を活かし、いたる所にモンチッチがいる公園を開園させ、全国のファンを惹き付けています。そして、葛飾区青戸・立石では、同地が発祥の「リカちゃん人形・プラレール・人生ゲーム(タカラトミー)」を活かし、都内初のリアル版まちあるき人生ゲームを開催するなどしていきます。



原作者の秋本治さん(右)と両さん像(中央)と共に「こち亀ベンチ除幕式」に参加した筆者(左)



「キャプテン翼」でまるごとラッピングされた京成電鉄四ツ木駅

さらに本区は、日本各地の市町村との『協働』によるまちづくりも進めています。映画「男はつらいよ」全49作品の各ロケ地を縁につながりを

持った区市町村が集合して、たくさんの人々に各まちの魅力を再発見してもらおう「寅さんサミット」を開催しています。北は秋田県鹿角市から南は宮崎県日南市まで、延べ61区市町村が参加して、各まちの魅力を知らずともらう取り組みを進めています。他にも、各地の児童サッカーチームが集まって「キャプテン翼カップU・12ジュニアサッカー大会」を開催しています。北は北海道富良野市、南は長崎県平戸市に至る各地の延べ60チームが交流を深めています。今後

も連携を深め、本区と各市町村がウインウインの関係で相互に発展し合うようにさせていきたいと考えています。

健康づくりは良い仕事づくり

私も若い頃から身体を動かすことが大好きでした。それが今に至るまで、さまざまに形を変えつつも続けられ、私の健康づくりになっています。

学生時代は陸上競技に親しみました。高校1年生の時に1964年の東京オリンピックが開催されました。国立競技場の観客席に座った私の目の前を、当時100m走で10秒0の世界記録を持っていたボブ・ヘイズが駆け抜けていった光景が、今でも目に焼き付いています。

社会人となってからは競技ダンスに励みました。毎日、仕事の後に少しずつ練習を積んで、競技会を楽しみました。その時のパートナーが妻で、その後の人生も助け合いながら歩んでいます。30歳で現役を退いた後は、指導者として多くのダンス愛好者の方々とダンスを続けました。

区長となつてからは、ダンスの指導を続ける時間を確保することが難しくなりました。代わって「現場を歩くこと、飛び回ること」が、私のプライベートタイムを含む日課、そして自分自身の健康づくりの柱となっています。平日・休日の別なく、保育施設・高齢者施設・町会の防災訓練・地域



LiliCoさん(右端)と一緒にマラソンする筆者(左端)

の文化祭などの現場を飛び回っています。夏には各地域の盆踊り会場を120〜130カ所ほど回って、踊りに参加させてもらったりします。現場を私自身が巡ること、新たな課題が見え、解決のヒントも発見されます。さらに新たな『協働』のパートナーとの出会いも生まれます。現場は、新しいものを創り出す源泉です。歩き、走って、区政の現場を回することは、区政の発展とともに自らの健康づくりにもなっています。全国の自治体の皆さま、ともに日々切磋琢磨してそれぞれの「夢と誇りあるふるさと」を築いていきましょう。